

アルバイトで頑張るためのモチベーションに関する研究

1240439 小松 将也

指導教員 肥前 洋一

研究背景

アルバイトのさらなる発展と高い水準を維持できるようにするためには、アルバイトで働く人のモチベーションが大きな鍵を握っている。モチベーションが高い労働者にはその高いモチベーションをどのように維持させるのか、低い労働者にはどのようにしてモチベーションを持たせるのかを各々の雇用者が考えて実行しなければならない。アルバイトを辞めてしまう労働者を少なくすることに繋がり、より長くアルバイトを続けてもらうことを社会に促すための研究である。

研究目的

本研究は、アルバイトを辞めてしまう労働者をどのようにして減少させるかについて追求した研究であり、そのために労働者がどんなモチベーション持っているのかを調べ、モチベーションの維持・向上を図る手助けとなることを目的としている。

研究方法

アルバイト先への就職を意図していない寿司屋（高知県南国市）のアルバイト店員（クルー）に直接話を聞き、どのようなモチベーションを持っているのかを把握し、経済学・心理学・社会学の観点で分類し、そこから研究結果を導き出した。

分析結果

経済学・・・昇進・昇給よりも金銭的報酬（給料）を目的としている人が多かった。親に恩返し、負担を減らすことを目的とした学生が多く存在した。

心理学・・・お金を貰っている以上働くのは当たり前、お客様の期待を超える、バイトでもやるからには全力で働く。内的・外的動機付けによるモチベーションは少ない結果となった。

社会学・・・一人よりもみんなで協力して、自己成長（社会的自立）をモチベーションにしている。また、一緒に働くメンバーによってやる気も変わる。

考察・結論

アルバイトをしている労働者がなぜ頑張るのかを追求した結果、一緒に働くメンバーによってモチベーションが大きく変化することが分析できた。インタビューをした多くの人がバイトでお金を貰っている以上、全力で仕事をこなすという概念を持っているという結果が生まれた。経済学モチベーションが3つの中で一番大きなものであった。